

聞及びの通りにて、東京の重なる銀行でも裕金が多くて困ると謂ふ有様にして、此の節こそ相當に事業も起りて善からう、また起るであらうと思ふ矢先に日露の關係、昨年から掛けて本年に入り、益、劇しくなれり。

然らば此の後の經濟界は如何と云ふに、固より我々の凡眼にて窺知し得べきにあらざれども、向後の波動は益、強くなると思ふの外無く、また左様であると信じて居る。果して強くなるものとすれば向後の方針は如何にすべきか。商賣人として種々なる注意種々なる勵精も必要なるべきが、自分等の最も希望する所は、今日の儘に片輪の有様に安んじてはいけぬ。從來の進んで取ると云ふ主義を、縮めると云ふ方針に向けてはいけぬが、さて進んで取ると謂ふ間には、多少の蹉跌もあり多少の間違も無いとは謂はれぬ。而し蹉跌を恐れ失敗を怖れ、從來の方針を變更して延ばした手を縮むること、せば、最初に申上げた日本國民の共に豫期した所の東洋の商賣上の盟主となることは殆ど望み難く、のみならず遂に所謂他國の後に墮若たらざるを得ずと思ふ。

世の所謂識者中には、是迄の事に關しても種々非難をなすものがあるが、是迄の事

今後の經濟界如何

は皆一生懸命に掛りしことにて、中に俗に謂ふ腰試しのものもあり又間違もありたるべきが、しかし其の間に多少の進歩をなしたることは非認すべからず。また何事も悲觀的觀察をなす連中の中には、株式會社の事に關しても、此の會社には斯かる人物が居る。彼の會社にはあゝ云ふ不都合があると、株式會社彼自身までも非難するものもある。若し今日の株式會社が完全無缺のものならば、無論斯かる非難は起るまいけれども、併し翻つて考ふれば、今日經濟界に重なる力を以て重なる仕事をなしつゝあるは何であるか。鐵道の如き、銀行の如きいづれも株式組織にして、株式組織が進歩したればこそ此等の事業も擧ることが出来たので、無論今日の株式會社に多少の弊害無しとは謂はぬが、多少の弊害がありたれば直に株式會社其のものを非難するのは、馬を教へたから馬から落ちる。船を開いたから沈没すると云ふのと同じで決して正當の見解とは謂へぬ。また斯かる勢を以て進歩し來たのは、實に經濟界のみならず政治界の事も同様にて、明治政府創設以來の事を仔細に觀察すれば少しく危険と思はるゝ點もありたるが、併し今日の國勢となりたるのは、全く此の進んで取ると謂ふ方針より總ての事を割出したから

と謂つても宜しい。されば向後も是迄と同一の方針を取り、所謂進んで取ると謂ふことに就いては我々充分に力を盡さねばならぬと思ふ。また經濟界に於ける向後の波動の大なることに付いて考ふるに、私は我が經濟界をして日本のみに孤立せしむること無く海外と共通をなすことは極めて必要なことと思ふ。此の事は自分が申上ぐる迄も無く世間でも頗る議論のある所なるが、海外とは元來國の成立も違ふし、人情も異なり習慣も殆ど反對と云ふ次第なれば、愈之を實際の事實たらしむるには、法律の改正も必要なるべく、習慣上の事にも十分に注意し、商業道德と云ふことに就いても十分に注意する必要があると思ふ。

兎も角、向後の經濟界には波瀾が多い。波瀾の多いほど滞る時期も多く、歸する所國の進歩を遅々たらしむることゝなるを以て、之に對して如何に處すべきかに就いては、出來得べくんば大方針大項目なりとも定めて置きたいと思ひ、二三の元老と篤と相談したることもあり。元老の中にも賛成を寄せられた人もあるが、さて實行は如何かと云ふに一向其の運びに至らぬ。何時も空談となりてしまふ。時機の未だ到來せざるのか、私共の謂ふことが其の宜しきを得ざるのか、又は人様

の熱心の足らぬのか、いづれ何處かに缺くる所あるに相違無きが、兎も角私も未來に對する經濟主義に就いては、成るべきだけ大項目にても一致せしめ、今申す進取の氣象を一層大ならしむること、海外との經濟的共通を開くことに就き充分に努めたいと思ふ。是が經濟界に對する私の平素の希望にして、諸君に於ても此の事に御同意下され、其の實行に向つて十分に御助力あらんことを請ふ所以なり。

(明治三十六年十月二十日、肥後二十日會に於て演説せるものなり)
の筆記にして國民新聞紙上に掲載せられたるものなり)

五〇 日本銀行新舊總裁送迎の辭

山本總裁
の去るを
惜しむ

山本達雄君は日本銀行に御從事なされて、營業局長に、又理事に、三十一年に總裁の職に就かれて以來、時恰も經濟界に種々なる變遷を受け、明治廿七八年の戰爭若くは戦後の經營として、卅一年後の有様は經濟界の恐慌とも云ふべき姿であつた。此の間に於て我々が同氏の指導を受けたのは、實に容易でないと深く感銘致して居ります。其の間には我々種々なる我儘を申した事もあり、御心配を掛けた事もあり、苦情を申した事もあり、喜んだ事もありませう。始終憂樂を共にした御方が、

今日日本銀行を去らるゝのは、我々之を憂惜して已まぬのであります。

去るを惜しむるを喜ぶ

松尾臣善君に對しては最も深交あつて、同氏は常に財政事務を執つて居られた御方である。私共此の業務に就いて以來御世話を蒙つたこと尠からぬのである。而して山本松尾兩君の更迭は、我々の最も厚く依頼し厚く尊敬する日本銀行といふ經濟の中樞に居る所の要職の方々の御更迭である。此の更迭に際しては、我々の感覺如何に就いて御考を願はねばならぬ。前者の去るを最も惜しむといへば後者の來るを喜ばないこととならう。また後者の來るを喜べば前者の去るを惜しまないといふことにならうが、我々は左様な考を持たぬのである。山本君が經濟界に盡瘁せられた事に就いて、我々の同君に負ふ所は何時までも忘れないのである。蓋し今夕の會は、右の如く前者の去らるゝを惜しみ新しく來らるゝを喜ぶの意を表する會である。扱我々は兩君に對して希望の一二を述べようと思ふ。山本君は今閑散の地位を得たれども、君の實驗才能は長く閑散を貪ることを許さぬであらう。是深く望を措く所であります。

松尾新總

松尾君に對して申上げ度い事は、同君の財政經濟に熟練せるは定論ある所だ。

裁に屬望す

さりながら財政と經濟とは其の道一なるも、其の實務に就いては多少の差がある。之に就いては能く御考を願ひたい。日本銀行總裁の職は此の財政經濟の中樞を司るもので、謂はゞ官民の連鎖に位して居る地位である。或る場合には嚴肅に檢束を加ふる必要もあり、又或る場合には放膽に力を注ぐ事もあらう。此の深淺の度合に至つては自ら力を用ひて戴かねばならぬといふことは、難きを求めるてはなからうと思ふ。同君は或は財政に御熟練なるも經濟には御熟練が無いかも知れぬ。又財政には鋭敏な理解力を持つて御出ても、經濟には其の身が其の地位に居らぬから比較的多少劣るかも知れぬ。若し近きに厚うして離るゝに薄うすることがあつたなら、我々經濟界は日本銀行に對して多少怨を言ふかも知れない。願くは未來に就いて財政整理と共に、經濟界に力入れを御依頼するのであります。

(明治三十六年十一月九日、東京銀行集會所主催に係る日本銀行新舊總裁送迎會に於て)

K24N-8

濠澤男爵實業講演「乾」

濠澤男爵實業講演「乾」終

美

終

